

【事例発表】

団体名：(特非)神戸定住外国人支援センター

＜団体紹介＞

URL:<http://www.social-b.net>

私たちは地域に暮らす多様な文化背景を持つ人々が
「ともに生きる」ことができる社会に向け、
活動する民間の非営利法人です。

E-mail: kfc@social-b.net



＜事業実施概要＞ 「ゆりかごから墓場まで」私たちは地域密着でマイノリティの支援をしています。

高齢者支援	日本語学習支援	子ども支援	相談	民族文化の育成	調査・研究	関連機関への提言
-------	---------	-------	----	---------	-------	----------

★日本語学習支援

- ・グループレッスン
- ・マンツーマンレッスン
- ・生活日本語クラス※

※生活に必要な身近な話題を
ボランティアと一緒に
生の日本語で話しあっています。
個別学習の時間もとっています。



★支援者向け

- ・研修会
- ・教室間の連携会議
- ・シンポジウム



★世界文化交流

- ・七夕会
- ・浴衣着付け&お茶会
- ・料理交流会 etc.



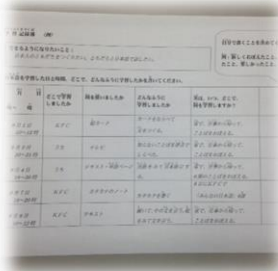
★日本語学習コンテンツや記録簿の作成

- ・生活日本語「なでしこジャパニーズ」ⅠⅡ
- ・学習記録簿※

※学習者が書く学習記録簿を作成しました。

①当センターや自宅、他の教室での学習も記録してみる。

②教室間でその学習記録簿を共有する。
と大きい目標をもって2013年から
取り組みましたが、道半ばです。



2015年度は支援者同士で学習記録簿の
活用方法を考える研修会をする予定です。

事業実施概要

事業名称	神戸生活日本語・学習記録簿普及推進事業			
地域の課題	神戸市内には日本語学校や日本語教室が数多くある。以前からボランティアの教室で学習している人は多い。しかし学習できる内容は文型中心である。また複数の教室に何年も通っているが、十分でないケースも見受けられる。多くの教室があるという資源を活かしきれていない（教室同士の連携がとれていない）という課題がある。			
事業の目的	「生活日本語」の考え方を広める。さらに学習者が持つ学習記録簿を普及させ、神戸市、兵庫県や他の日本語教室と連携して、どの教室でもニーズに合った日本語学習ができること、横のつながりを強化して学習者が効率よく日本語を習得できる体制を整える。			
	取組1		取組2	
	名称	「生活日本語」クラス	名称	世界文化交流と日本語教室
	目的	生活に必要な日本語と表記、文法を習得し、社会での行動範囲を広げる	目的	日本文化に触れる機会の提供。日本事情や知識の学習。
	内容	定期的、継続的な学習機会の提供。市民の生の日本語に接しながら学習できる教室の開催。	内容	日本や世界の文化体験を通して、相互交流と日本語学習の場をもつ。
	対象	入門・初級・中級レベルの学習者	対象	初級・中級レベルの学習者
	時間	1回 2時間×80回(全160時間)	時間	1回 3時間×10回(全30時間)
	人数	56人	人数	136人
	取組3		取組4	
	名称	学習記録簿と参加教室の連携を発展させる取組	名称	シンポジウム「日本語教室の連携のあり方を考える」
	目的	複数の教室で日本語を学習する場合に、横の連携を取る。学習記録簿が利用できるように普及活動をする。	目的	外国人に対する日本語教育の社会的責任と地域住民への理解促進
	内容	学習記録簿を学習者が持ち、複数の団体でそれに基づいて学習できるよう、研修会を行い、協力してくれる団体を開拓し連絡会議を持つ。	内容	2014年度の取り組みの成果をまとめてシンポジウムを行う。
	対象	日本語支援者、地域日本語教室の運営者、この取り組みへの賛同者	対象	地域住民 日本語ボランティア 日本語講師 日本語学習者
	時間	1回 3時間×12回 総時間数 36時間	時間	1回 4時間×1回
	人数	61人	人数	47人
連携体制	神戸市内のボランティアの日本語教室（9団体 26名）や帰国者関係の教室（5団体 38名）の支援者で研修と会議を行った。			
成果と課題	生活していく上で必要な日本語（生活日本語）を学習するという考え方の理解は深まり、学習者が継続して教室に来るようになった。学習記録簿を支援者に理解してもらうように取り組んだが、教室同士をつなぐものにはできていない。			
参加者の皆様へ一言	生活していく人の視点にたつことを忘れずに取組をすすめています。 10月3日は生活日本語のクラスの様子と学習記録簿の紹介を行う予定です。^-^			